

フリーエネルギーの発見(5)

(魔法のコイル・3000 回巻)

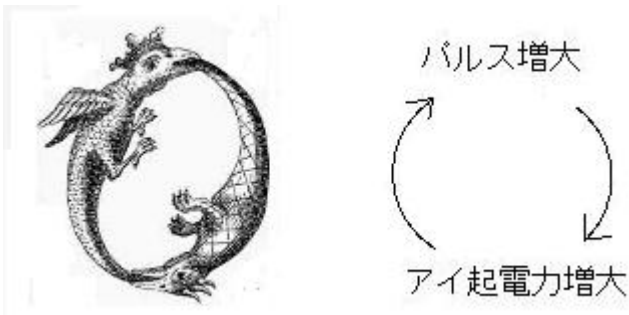
渡辺 満 (静岡県)

§0 はじめに

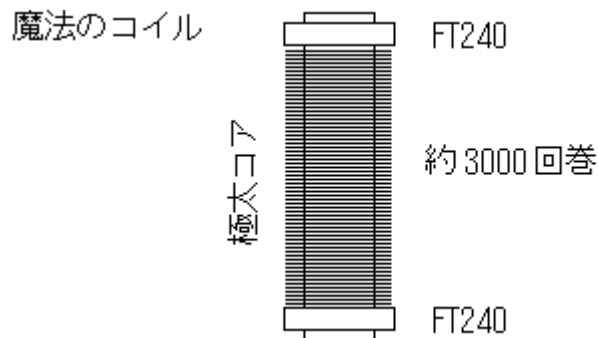
1 年前だったか、2 年前だったか、忘れてしまったが、
テレビで、「ウロボロス」というドラマを、やっていた。
そのとき、ウロボロスの図を見て、これは考え方として、使えるなと思った。

前回(4).pdf の §2 で紹介したパルス強化回路では、
このウロボロスを意識している。この回路では、
% パルスが増大すれば、アイ起電力が増大し、
アイ起電力が増大すれば、今度は、パルスが増大する。 %
という増大スパイラルができる。
(2つの要素が互いに相手を強める。)

ちなみに、ウロボロスには、「永遠と再生」という意味があるらしい。
図は、適当なサイトより、コピーさせてもらった。



§1 魔法のコイル(3000 回巻)



例の極太フェライト・コア(34mmφ、長さ 200mm)に、
 前回の倍の太さの 0.65mmφ 導線を、約 420m 巻いた。
 巻数は約 3000 回、電気抵抗は 22Ω。
 これを、前回(4).pdf の §2 の回路に、コイル M として組み込むと、
 ダイアック 16 個まで LED が光った。
 ダイアック 16 個は、512V(=32V×16 個)の障壁を作る。
 (K1=約 1.5kHz)

電源は DC6V なので、痺れることは、めったにないのだが、
 実験中についっかり、むき出しの部分に触れてしまったら、
 飛び上がらんばかりに、痺れた。
 共振回路が、エネルギー溜まりに、なっているらしい。

時々、555(LMC555)や JK フリップ・フロップ(TC4027BP)が壊れる。
 巻数の多いコイルをスイッチングするので、鋭いノイズが発生し、
 そちらへ飛んでいくのだろう。
 しかし、本質的な問題ではないので、対策は先送りしている。

電源は DC6V なのだが、このコイルは、約 500V で共振する。
 ‘アイ起電力’の存在がなければ、このような高い電圧には、ならないだろう。
 これが、何よりの証拠である。

§2 アイ起電力仮説

「巻き数の多いコイルに、強いパルス状の電流を入力すると、
電磁誘導とは別の起電力が、順方向に生じる。」

という実験結果を得た。

僕は、これは、電磁ポテンシャル(Ai)によるものだろうと考え、
‘アイ起電力’と名付けた。→ 前回(3)(4).pdf

テスラコイルでは、放電によって得た強いパルス電流を、
間接的に、巻き数の多いコイル(テスラ・シリンダー)に、入力している。
エマモーターもまた、放電を用いてパルス電流を作り、
それを電磁石に入力し、電磁石の反発力(または吸引力)を利用して、
ローターを回転させている。

テスラコイルもエマモーターも、‘放電によるパルス電流’という点が、
共通している。

また、僕の実験も、放電でこそないが、パルス電流という点で一致している。
どうも、このアイ起電力が、フリーエネルギーらしい。

●時空理論

アイ起電力発生メカニズム(仮説)について述べるためには、
僕の時空理論が必要である。

時空理論は、時空の数学的構造を明らかにする理論である。

かつて、ユークリッドは、数学の起源ともいえる、ユークリッド幾何学を打ち立てた。

ユークリッド幾何学は当然、数学であるが、

しかし、見方を変えると、物理学のようにも見える。

有名なピタゴラスの定理を、考えてみよう。

紙の上に、直角三角形を任意に描いて、その3辺を物差しで測ると、

ピッタリ、 $a^2 + b^2 = c^2$ になっている。

これは、誰でも実測して、確かめることができる

実測で確かめることが、できるというのは、まるで物理の法則のようである。

時空理論もまた、ユークリッド幾何学と同じような性格の理論である。

すなわち、時空理論は、数学であると同時に、一方で、物理学でもある。

逆の言い方もできて、物理学であると同時に、数学でもある。

時空理論は、「時空の起源を零から解き明かす、数学である。」

時空理論によれば、

「電磁ポテンシャルは同時に、重力ベクトルでもある。」

さて、アイ起電力発生メカニズムについては、現時点では、次のようなものを考えている。

- 1) 電磁ポテンシャルの重力によって、導線内の自由電子が加速され、それによって、電流が増大する。
- 2) 電磁ポテンシャルによって、導線内の自由電子の質量は小さくなる。逆に、その速度は大きくなり、電流の増大となる。

直感で言うと、1)よりも2)の方の可能性が大きいと思う。

近年、ネット上で、「重い電子」の記事を、チラホラ見かける。

別の記事で、「電子が軽くなって、その速度が大きくなる。」

というのもあった。

どうも最近では、電子の質量変化が、実際に観測されているらしい。

「してやったり！」と、僕は思った。

電磁ポテンシャルの作用によって、物体の質量が変化することは、時空理論の結果として、以前から予想していたからだ。

これは、「宇宙の加速膨張」をもうまく説明する。簡単に言うと、

% 天体が宇宙の彼方へ去るにつれて、

その時空(重力)ポテンシャルが変化し、質量 m は小さくなる。

すると、 $mv = \text{一定}$ から、逆に速度 v が大きくなる。 %

2017年2月発行 V1.0

著者:渡辺 満, 発行者:渡辺 満

Copyright 渡辺 満 2017年